

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム 金刀比羅	ユニット名 4階	
所在地	福岡県北九州市戸畑区金比羅4-29		
自己評価作成日	平成24年11月26日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月17日	評価結果確定日	平成25年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年度は「原点に戻ろう」をテーマに現在行っているケアや関わりについてその意味をもう一度深く見つめ直すことにしました。過ぎていく毎日の中で今まで忘れがちであった事をもう一度見つめ直し原点に戻る事で生活がより豊かになるよう取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>（この欄は外部評価機関からのコメントを記入する欄です。コメントがない場合は空白で構いません。）</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は各所に掲示すると共に、名札にも記載し意識を高め、ニーズに応えられるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他グループホームや、隣接する建物の行事、地域のお祭りなどに参加している。また、近隣の花壇の里親になり、草花を育て始めた事で近所の方々と挨拶や言葉を交わす機会が増え交流が深まっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を行い、当事業所の取り組み発表の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、ご家族様、自治会の方や地域包括支援センターの方々にも会議に参加してもらい、サービス向上のためご意見をいただくようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方と、推進会議にて取り組みについて伝え、意見を頂いたり、相談や情報収集を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的に勉強会を行っている。交通量も多く、近くに山もある為、入居者様の安全を第一に考え、ご家族様の了解のもとエレベーターを施錠しているが閉塞感がないよう努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、職員への理解と意識向上に努めている。また、介護主任、フロアリーダーが日頃より注意を払い防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護に関する研修に参加し勉強会を通して全職員が学べる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分説明し、改定時は文書や面会時、又は電話にて説明し理解、了解を得ている。また、疑問点等いつでも問い合わせできる状況を作っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等でご意見、ご要望を伺っている。また積極的にコミュニケーションをとり話しやすい関係づくりに気をつけている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや終礼等で、様々な意見や提案を聞く機会を設け問題点、改善点をあげ反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの得意な事が活かせるように役割分担している。法人からは永年勤続者への報奨金の支給や資格手当、介護職員処遇改善加算による特別手当を支給するなど配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢は問わず採用し、本人の希望や能力が活かせる様配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や勉強会の場を通して知識を深められるように取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの特性を把握し、それに合った研修への参加の機会を設けている。また、定期的に研修報告会や勉強会を行い、全職員のスキルアップに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「交流会」と称し近隣の他事業所職員と意見交換を行っている。また、行事の際は他事業所の方を招き交流をはかっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を行い、ご本人様の気持ちや要望等を伺いケアプランに反映させている。また職員間で情報をしっかり共有しながら入居当初は特に声かけを大切にコミュニケーションを図るよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を行い、ご家族様の気持ちや要望等を伺いケアプランに反映させている。また相談室を設け落ち着いた場所で話せる環境を作っており、随時相談を受けられるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じてショートステイ等を紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に支援するのではなく、入居者様の得意な事、出来る事を見極めながらその力を活かせる場面づくりを心掛けている。一緒に生活することで学ぶことも多く、支えあいの関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には十分情報交換を行い、状況によっては協力をしてもらうなど「ご家族様と一緒に支えあう姿勢」を大切にしている。また、「入居者様とご家族様が一緒に過ごせる時間の大切さ」も考えながら、ご家族様にも参加していただけるような行事を増やしていきたい。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある美容室や自宅など、ご家族にも協力して頂き外出できるよう努めている。又、友人とこまめに文通されている方もおり、職員と一緒に郵便局にでかけたりポストへの投函にでかけたりと、今まで作り上げてきた関係を維持できるよう支援している。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の家事仕事や行事、レクリエーション等を通して交流が深められるよう、場面づくりを心掛けています。また、スタッフがうまく間に入りサポートすることで入居者様同士の信頼関係が生まれる事を願っています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや相談等、利用契約時と変わらぬ対応でおこないます。又、必要に応じて関係機関・関係施設へお繋ぎします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様の希望や要望をうかがい担当者会議を定期的に行っている。意向を伺うことが困難な場合は、ご本人様にとって「何が一番いいのか？何を望んでいるのか？」を考えていくようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とのコミュニケーションの中や家族様が来所された時に情報交換を行い把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活全般の状態観察を行いケース記録に記入すると共に申し送りを徹底している。職員の情報共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートや毎月のモニタリングを検討し、関係者との意見交換を行い現状に沿った介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日ケース記録やノートに記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常は3か月に一回、担当者会議とアセスメントシートの作成を行い、ご家族様との情報や意見交換を密に行いながら、多様なニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	診療所が隣接しており、看護師との連携を行い報告、連絡、相談や健康管理日誌と常に態勢が整っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所が隣接してあり、定期的に戻診、受診を行っている。又、週に一度訪問診療も行っている。状態に応じて、すぐに受診を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	金刀比羅診療所と契約し、24時間連絡可能な体制である。気づきや異変時は、相談しアドバイスや指示を仰いでいる。緊急時は診療所・協力病院への受診や看護が受けられる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師かソーシャルワーカー、看護師長、リハビリスタッフ等と情報交換を行っている。入院中も面会に行き状態の把握や情報提供するように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における「指針」を確立している。御家族様と職員全員で協力体制を整えている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員を設置し、定期的に会議や勉強会、訓練も実施している。マニュアル作成をしている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的な勉強会を行い意識するようにしている。また、近隣施設や地域の方にご協力頂き、定期的に避難訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面・精神面など、入居者様の状態に応じた対応を職員間で話し合い共有するとともに、プライバシーに配慮しながら実践している。また、勉強会を行い、新人職員にも指導している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや家事への参加、入浴や食事など日常生活全般においてご本人が、選択できるような声かけの仕方を工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活リズムを大切にしながら、決まりごとを作らずその日の体調や気分等に合わせて対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の訪問を実施している。また、一緒に化粧品を買いに出かけたり、要望に応じて眉毛をかくなど職員が入居者様の化粧をお手伝いしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの得意な事を活かしながら盛り付けから片づけまで職員と一緒にやっている。定期的ではあるが軽食やお菓子作りなどもやっている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、バランスの取れた食事を提供し、食事・水分の摂取量は職員がチェックしている。また、ご本人に合わせた食事形態の工夫や提供を行っている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりに合わせた口腔ケアの声掛けや介助を行っている。また、義歯を預かり定期的に洗浄液につけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票を参考にしながら、排泄時間の開いている方には、声掛けや、状態に合わせた介助を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの好みに合わせた飲食物を提供しながら毎日の生活の中で体操やリハビリ、散歩等適度な運動量の確保に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定はある程度決まっているが、日時や入浴場所等できる限りご本人の要望に沿うようにし、入浴を楽しんでいただけるよう配慮している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じて休息してもらったり、夜間個々のペースにあわせて就寝時間を設けている。また、不安や淋しさから眠れない方には寄り添い安心してもらえるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は直ぐ確認できるよう全て管理し内容を把握している。何か疑問点があれば主治医および薬局に聞いてあわせている。日々の小さな変化も見逃す事のないよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を把握し、お一人おひとりの得意な事や能力を活用した役割や、行事を考え対応している。買物や外食、ドライブなどの機会は以前より増えています。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、ご本人様の希望に添って外出できるように努めている。ご自宅や行きつけの理美容など職員が対応できない場所へはご家族様の協力を得ている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買物等へ出かけ、その際は入居者様に支払を行ってもらっている。少額の現金以外は事務所で管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から荷物や花が届いた時はお礼の気持ちを電話や手紙で伝えている。また、ご友人やご家族様宛てに手紙を書かれた時はスタッフと一緒にポストまで投函に行かれる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節感のある写真や絵を貼ったり、飾りを入居者様と一緒に作り展示したりしています。また一定の室温を保ったり採光に気を配るなど不快にならないよう配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを配置し、のんびりとテレビが見れるようにしている。また気の合う入居者様同士で楽しく会話ができるよう、テーブルやイスの配置・座席等を配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品や、なじみのある家具を設置したり、ご家族様や職員からのプレゼント、ご家族様の写真等を飾る事で居心地のよい空間作りに努めている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに看板をつけたり、居室の入口に表札や目印になる飾りをつけるなどし場所が分かるように工夫している。またお一人おひとりの身体能力に合わせてフロアや居室のレイアウトを考えるようにしている。		